



いろは

第17回は 人生いろいろ ♪♪♪

単位もいろいろ

Q 級 (Q) とは？

A 写真植字 (略して「写植」) システムの開発に伴い、設定された日本独自の単位です。日本語組版の文字サイズ単位で 1 級 = 0.25 mm と決まっています。「級」は「Q」とも書かれますが、この Q はどこから来たのかといえば、Quarter (1/4) の頭文字で「Q」なのだそうです。読みが「きゅう」だから「キュー」を当てたのかとも思っていたましたが、日本的じゃないほうでした。でも、よくよく調べてみると、写植機では、文字を使用頻度によって分類する単位として「級」が使用されていたこともあり、両者の混同を避ける意味を含めて、文字サイズについては「Q」と表記するほうが正確だとされているそうです。

Q 歯 (H) とは？

A 文字と文字の間隔や、行と行の間隔を表す単位で、こちらも 1 歯 = 0.25 mm となっており、級と同じサイズを表しますが、間隔の単位 (行送り、字送り) として使い分けられることが一般的です。かつて組版に使っていた写植機は、印画紙を巻いたドラムを歯車によって回転させることで文字を焼き付けていました。歯車の一つ分が 1 級分 (0.25 mm)、歯車が一つ動くとい字位置が 0.25 mm 移動する仕組みだったことに由来します。

Q ポイント (P) とは？

A ポイントも、文字や図形のサイズを表す単位のことです。「1 ポイント」は「1pt」とか「1 ポ」とも表記されます。日本工業規格 (JIS) では 1 pt = 0.3514 mm と定めていますが、DTP で使用するサイズでは 1 pt = 0.3528 mm としており、数値がビミョーに異なります。その他にも、古くから使われているフルニエ・ポイント (1 pt = 0.34882 mm)、ディドー・ポイント (1 pt = 0.3759 mm)、アメリカン・ポイント (1pt = 0.3514 mm) など、使うところが変われば数値も変わるようですが、弊社作成の Q 数表で使われているのは DTP ポイントです。ちなみに、文書作成ソフトのスタンダードである「Microsoft Word」では、フォントサイズは 10.5 ポイントがデフォルトに設定されていますよね。なぜ 10.5 なのか、それは、かつて日本で使われていた活字の大きさの単位「号」に由来するのだそうです。公文書は五号で作成するよう定められていたのですが、その五号が 10.5 ポイントとほぼ同じサイズなのです。使い勝手が良かったから、現在でもスタンダードなフォントサイズとして使用されているのだそうです。

DTP ポイント
1 pt = 0.3528 mm

63 DTPpt

永

JIS ポイント
1 pt = 0.3514 mm

63 JISpt

永

▼ 各 21pt で重ね合わせた場合 ▼

ポイント換算規格の違いでビミョーに文字がズレていきます
ポイント換算規格の違いでビミョーに文字がズレていきます
ポイント換算規格の違いでビミョーに文字がズレていきます

「Prog × ホームページ 連動企画

▶ オレンジの PDF & Excel でできる索引抽出・読み入力法

Foxit PDF Reader というフリーソフト (通称「オレンジの PDF」) をご存じでしょうか？

Reader という響きから、Adobe Reader のようなものと想像されがちですが、PDF への書き込みや引き出し線付きテキストの追加、文字カウントなどが可能で普段使いにもオススメです！そして、声を大にして言いたい、「ハイライト部分のテキストを CSV ファイルとして抽出できる機能があるんです!!」

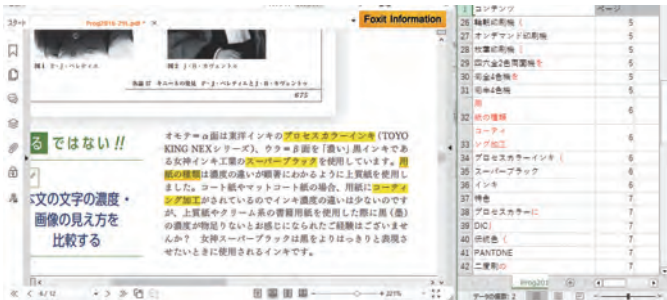
本 Prog とホームページの連動企画として、「オレンジの PDF & Excel でできる索引抽出・読み入力法」をまとめました。Foxit PDF Reader で用語を抽出し、Excel のふりがな機能で一氣に読みをつければ、索引作業が効率化できること間違いなし。弊社のホームページからダウンロードして、お試しください。

オンラインツールの「I LOVE PDF」(https://www.ilovepdf.com/ja) と組み合わせて使えば、PDF がもっと使えるものになってくれます!!

▶ I LOVE PDF の TOP 画面 ▶



▼ オレンジの PDF と Excel を使用した例 ▼



●●●Prog 2023.Extra vol.38

【エイワのブログ】
2023年5月21日発行 vol.38
永和印刷株式会社
〒112-0005 東京都文京区水道2-4-23
TEL. 03-3813-5001 FAX.03-3813-5005
E-mail (営業部) mail@eiwa-p.com
(DTP 事業部) dtp@eiwa-p.com
http://www.eiwa-p.com

●●●Prog 2023.Extra vol.38
Printing Professional Log by EIWA

2023年5月21日発行 vol.38 復活号

もっと、使えます——永和印刷株式会社

ご挨拶 おかげさまで創業 70 年を迎えました

関係各位におかれましては平素格別のお引き立て賜り誠にありがとうございます。

おかげさまで弊社が 2023 年 5 月 21 日に創業 70 年を迎えましたことは、ひとえに皆様のお力添えがあってこそとあらためて感謝申し上げます。

印刷工程は進化し、また紙そのものの需要も変わってきておりますが、「世に必要とされる情報を正しく・わかりやすく」お伝えすることの重要性は、むしろ増すばかりです。

「もっと伝える」をスローガンに、お客様のお役に立てる永和印刷を目指してまいりましたが、今後はさらに弊社を「もっと使って」いただきたく、心ばかりの記念品とともにお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様の益々の御盛業を祈念申し上げます。



代表取締役社長 久永康彦

記念品 永和オリジナル Q 数表下敷きとふせんを作りました !!

創業70周年を記念して、オリジナルのQ数表とふせんを制作いたしました。担当営業より配布させていただきます。

下敷きには、60周年でご好評をいただいたQ数表に以下の6つの改良を加えました。①PPシートの厚さを薄くし、②中央にあった定規は側面2辺に移動、③歯送りスケール [1目盛り=5H (歯)=5Q=1.25mm]、④基準の13Qの色分け=赤枠、⑤紛らわしいカナと漢字等の比較サンプル=青文字、⑥分度器機能=桃線を追加しています。

青文字で、タと夕、ロと口、ハと八、カと力、ニと二 (いずれもカナ・漢字の順) に音引、一 (漢字)、全角ダシ、マイナス、最大サイズ目安として「国」を入れました。フォントは「リュウミンR」を使用しています。

Dr. Hagi のアナログクリニック

carte.000



Q 数表の使い方

マスごとに文字が入るように、該当する級 (Q) 数を当ててみます。級数・ポイント数が合っているとピッタリとはまります。ただし、多くの欧文数字

フォントはそれぞれのサイズが異なるので、ずれてしま

いますし、字間を詰めたり逆に広げている場合には、枠にはまってい

もずれて見えてしまうのでご注意ください。
・は 5 字ごと、数字は 10 の倍数ごとに入っているの、文字数の確認が可能です。級 (Q) とポイント (P) の対応も確認できます。

歯送り表の使い方

字間・行間の指定、級数を組み合わせたアキの指定をする際に用います。上段は 5H (=1.25mm)、下段は 4H (=1mm) で 1 目盛りです。

字送り

横組みの場合は、文字の左端から次の文字の左端までを測ります。

行送り

横組みの場合は、文字の上端から、真下にある次の行の文字の上端までの長さを測ります。

わざわざ Q 数表で指定したり、確認をする機会は減ってきているかもしれませんが、オペレータの私たちも Q 数表をとおして、Q 数や送りを日頃から感覚としてつかんでおくことが、お客様へのご提案であったり、間違いの気づきにつながったりしています。

5 種類のふせんには、「要確認」「重要!!」「要 PDF」「要念校」の文字が印刷済です。枚数にかぎりがありますので、ふだんお使いのふせんと組み合わせて、用途にあわせてご利用ください。



永和印刷の70年とその時代背景

NHKが日本初のテレビ放送を開始（1953年2月）した3か月後に永和印刷（以下、弊社）は設立されました。当時は活版印刷が主流の時代で、写真のように活字ケースから活字を拾う「文選工」と、活字を並べて約物を挟む「植字工」の組み合わせで作業を行っていました。この時代、必要な活字がないときに活字を逆さまにして入れる習慣がありました。四角く平らな活字の底には太い溝が彫っており、それを印刷すると「■」となり、下駄の歯の跡に見えることから「下駄（ゲタ）」と呼びました。現在でも仮の部分を「ゲタ」というのはその名残です。

1970年代、組版の作業は写植機で行い、印刷はオフセット印刷が主流となり、PS版に焼くためのフィルム作製（アナログ製版）が行われていました。カラー原稿を印刷に使用するCMYKの4色インキの成分比に分けることを「色分解」と言いました。現在ではRGBをCMYKへの「変換」するので「分解」という用語は使われなくなりました。印刷会社にとって金型やフィルムは財産でしたが、今では絶滅危惧種です。

1990年代にはDTPが主流になり、デジタルでフィルムが出力できるようになり、組版と製版の簡略・高速化の波が一気に押し寄せました。アナログ時代には、切り貼りだあ、返し返しだあ、ストリップだあ（※変更部分を削りストリップフィルムという薄いフィルムに写した正しい文字を貼り修正すること）という言葉が飛び交っていたのが、再出力すればすむようになり、CTP（データから出力した刷版）の普及後は、もはやフィルムすら不要の時代になりました。カメラもフィルムからデジタルカメラへと移行していったのとはほぼ同時期です。

2000年代後半、弊社にもB全機が導入され、DTP事業部、そしてより向上するため編集部も立ち上げたのはこれまで営業担当者や広報紙を通じてご紹介してきたとおりです。気づけば、そこから10年以上が経ちました。今後も時代とともに、組版・印刷の技術は進化を続けるでしょう。弊社はこれからも「もっと使いたい印刷会社」と感じていただくために、編集部、DTP事業部、印刷・工務部、営業・総務部の各部署でお客様のお役に立つため山溜穿石をお約束します!!

永和印刷をもっと使っていただくために

各部署意見込みと
オススメポイント

編集

2010年に編集部が発足してから、13年になりました。おかげさまで、多くのお客様にご愛顧いただいております。まだご利用されていない方は「永和印刷編集部」の原稿整理、校正をぜひ一度お試しください。

➡編集部では校正ソフト「Just Right!!」を活用することで、より精度の高い原稿整理を行っています。興味のある方はぜひご相談ください。



DTP

様々な原稿があるなかで、どのようなやり方をすれば、より正確でより速く効率的にゲラをお出しして下版まで進めるかをDTPオペレータ間で日々、意見を交換し取り組んでいます。現状に満足せず、新たなワザを追求し続けます。

➡PDFを使い倒せば、仕事をもっと効率化できるはず。本ProgではPDFのハイライト機能から索引用語の抽出する方法をご紹介します!!



印刷

永和印刷のこだわりはカラーの再現性や四六全判2色両面機によるスピードではありません。スミでも、深く濃いブラックのインキもありますし、様々な個別のご要望にお応えします。お気軽にご相談ください。

➡スーパーブラックのサンプルをご希望でしたら、担当営業にお申し付けください。合言葉は「見せてもらおうか。永和印刷のスーパーブラックの性能とやらを!」。



営業

担当営業は人生の半分以上を永和印刷で過ごしています!! 視力や体力の衰えを感じる年齢になりましたが、経験と技術でこれからもお客様にご満足いただけるよう邁進いたしますので、永和印刷をもっと使ってください。

➡Boxを活用すれば、データや校正の往来が格段に便利になります。「Box活用術」更新版をHPにアップしたので、ご活用ください!!

